◆テーマ②　話し合いを守山の政策づくりに活かす方法

市民懇談会

＜只友先生からの情報提供＞

お手元の資料「テーマ②：話し合いを守山の政策づくりに活かす方法（市民懇談会)」をご覧ください。市民懇談会とは、皆さんの想いを政策に反映させるための市民参画の方法です。現在では「パブリックコメント」「市民説明会」「市民アンケート」など多様な方法があります。しかし、「自分の意見がどう市政に反映されたのかが分からない」「参加者が固定化する傾向がある」などの課題も存在しています。

そこで、守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議では、これらの方法だけではなく、課題を改善する方法の１つとするため、市の基本的な事項を定める構想、計画の策定などの中間段階で、市民の皆さんの想いをその政策に反映できるよう、「市民懇談会」という方法を考え出しました。

ポイントは３つあります。１つ目は、無作為抽出による募集案内により、今まで市政に参加していなかった市民の皆様に参加していただけるよう働きかけるということです。市民懇談会には公募で応募された方、各種団体から推薦を受けた方、無作為抽出で選出された方の３つの方法で集まっていただいています。しかし、推進会議では無作為抽出を基本に検討したいと考えています。無作為抽出で案内の手紙を出して、自発的に参加をしていただくということです。そして、集まっていただいた議論の場で「ミニ守山」をつくることが目的です。守山市民全員が集まったら大変ですから、「ミニ守山」をつくるわけです。

２つ目のポイントは、行政への要望の場や個人の意見だけを反映させる場ではなく、多くの市民が集まり、お互いが話し合い、将来のまちのためによりよいアイデアを生み出していくということです。３つ目のポイントは、初期段階の話し合いで出された意見を基に委員会などで素案を検討し、再度開催する市民懇談会で、より掘り下げた話し合いをしていただくということです。

資料には制度の概要として、募集方法や報償、テーマ、開催するタイミングが記載されています。また、裏面には政策を作る際の市民懇談会の位置づけのイメージ図があります。ここには市の基本構想や計画の策定に係るプロセスが書かれています。皆さんよく耳にするパブリックコメントもありますが、これはよく最終案が確定してから行われます。そこで意見や質問が出されても、根本的な修正は行われにくいことが多いと思います。委員会などで審議をしている途中の段階で市民目線により議論するのが市民懇談会です。実際にこの場で行っていることがまさにそのプロセスになります。

市民懇談会では、市長や市会議員、市職員に意見を伝える場ではなく、ミニ守山で議論をすることが目的です。まずは自分の視野や経験から話をするのは当然ですが、話し合いをすることで立場の違う人の意見に耳を傾けながら、社会にとってどうやったらもっと良いことが考えられるかを議論していただくことが大事です。

前回の懇談会では、学区などでもよく懇談会を行っているからそれで十分ではないかと

いうご意見がありました。そういった皆さんがよく御存じの懇談会とは違うものです。見知らぬ人同士が集まってミニ守山を作って、市全体のことを考えるものです。これを行政手続きの中に入れていきたいと推進会議では考えています。

＜疑問点：Ａグループ（中山道）＞

・無作為抽出ではどんな人が来るか分からない。テーマに関係のない人が来ても、話についてこれないことはないか？
・介護や子育てなどテーマを分けて、テーマごとに人選していった方が良いのではないか？
・テーマに関係がない人でも、これを機会に知識を習得することができるので、幅広く来てもらうことも意味はあるのではないか？

＜疑問点：Ｂグループ（ホタル）＞

・無作為抽出では成り立たないのではないか？知識も経験もないことについて、意見を言えないのではないか？学生などは特に話し合いに参加するのは難しいのではないか？
・福祉であれば、経験者の中から無作為抽出をすることで、中身のある議論になるのではないか？
・この会は市民懇談会のための市民懇談会になっているのではないか？
・議論に参加してみたいと思う市民もいるので、無作為抽出だけではどうなのか？

＜疑問点：Ｃグループ（菜の花）＞

・なぜ無作為抽出だけなのか？自治会長が参加できるように見えないが、参加者に入るべきである。なぜ入ることができないのか？
・これまで行政懇話会で学区・自治会から市に対して意見を伝え、情報交換をする場があったが、市民参加の方法の中に見当たらない。今後、自治会長との意見交換をどう考えているのか？

＜疑問点：Ｄグループ（メロン）＞

・１つのテーマについて、１回だけで終わってしまうのか？複数回行って深めていくものなのか？
・無作為抽出であれば、議論をする前に分かりやすい資料を配布しておくべき。
・有償化するのがいいのでは？
・外部評価委員会などがある中で、市民参画の方法がまた１つ増えるので、違いを明確にしてほしい。
・専門の委員会があるのに、市民が議論して何をやっているのか分からなくならないか？

＜只友先生から疑問点に対するコメント＞

無作為抽出では専門的なことを議論するのは難しいのではないかというご意見がありましたが、部会では市民を全般的に信頼しています。市民は必ず分かってくれると思っています。何故かというと、市政のことなので、２０歳になれば選挙権を行使することになり、理解してもらえるということです。それから、行政側に責任があることですが、これから先は市民懇談会で議論が成り立つための行政資料の作り方を工夫しなければなりません。市民が理解できる分かりやすい資料を行政が作る責任があります。今までは法律のことや手続き上のことが詳しく書かれていて、それはすごく大切なことですが、市民に分かりやすく伝えるという努力が求められます。部会長としては特にそう考えており、事務局には普段からそう伝えています。

市民が専門的なことを考えることについて、例えば裁判員制度でも市民が無作為抽出で選出されて裁判に参加をしています。これは民主化するためのシビリアンコントロールです。市民懇談会は行政のシビリアンコントロールを高めるための手段の１つになるかもしれないと部会では考えています。

自治会との関係についてはグループの中で大いに議論をしてください。自治会とのすみ分けや参加者として入るべきなのかどうか、意見を出していただいたらいいと思います。行政懇話会が入っていなかったのは、事務局が書き忘れていた程度のことで、決してないがしろにしているわけではありません。行政懇話会は、自治会長が地域を代表して公式に市に対して意見を伝える場です。自治会長にはそういった場でしっかりと地域の状況や意見を伝えてほしいと思います。もしそれが形骸化しているとか意見を聞いてもらえないということであれば、市民懇談会とは切り離して考えたいと思います。ここでは自治会には加入しているけれど、あまり市民参加していない人が集まって議論することを考えています。

議論のテーマに関する資料を事前に配布することについては、今回は準備が慌ただしくて事務局が十分な対応ができなかったかもしれません。今後の課題としたいと思います。

守山をもっと良くするための制度として、どうやったらもっと活きるか、大事なことは何かを話し合っていただきたいと思います。

＜発表：Ａグループ（中山道）＞

●メンバー構成

・公募、団体推薦、無作為抽出の３つの方法が一番いいのではないか。そうすることでいろいろな層をカバーできる。

●報酬

・無償とするのは当然。自分たちの守山市のために市民懇談会に参加しているのだから、謝礼を付けるのはおかしい。

●テーマ、回数

・長期的な議論が必要なものと短期的に結論を出すものがあると思う。テーマを限定して行う場合もあるだろう。

＜発表：Ｂグループ（ホタル）＞

●市全体で具体的なテーマを決める

・市の何カ年計画などで大事なテーマについて、市民にぜひ知ってもらい参加してほしいテーマがある場合はまず決めてしまう。

●カテゴリーに合わせて参加を募る

・テーマが決まったら、例えば中学校の建替え工事などで市民の意見を聞く。そうすれば、中学校に通う予定の人や卒業生など興味がある人が出てくると思う。

・テーマやカテゴリーに合わせて、地域などで無作為抽出をして参加者を募る。

・市民の出席表を作り、自分が市政に関わっていることが自覚でき、責任を持って参加できるようにする。

●初めから決定まで市民が参加する

・政策を作るプロセスには、市民は一部だけに参加する形だが、最初に案を作る段階から参加し、途中段階でも意見を出し、最終案の段階でもパブコメなどで参加する。

・希望があれば最初から何回でも参加することができ、途中から参加した人でも話し合いの経緯が分かるように資料を残しておく。

・最初から最後まで市民が参加できるようにしておくと、市民の満足度が上がるのではないか。

・以上のことにより、無作為では参加者が集まらないのではないかという懸念から、市民側から意識を変えることにつなげられるのではないかという意見に至った。

＜発表：Ｃグループ（菜の花）＞

●メンバー構成

・今回で３回目の参加になるが、だんだんマンネリ化する恐れもある。

・無作為抽出は大切な方法だと思うが、それだけではまずいのではないか。

・自治会の関係者が意見を伝える場が少ないようなので、市民懇談会に参加する方が良い。

・町内には協働のまちづくり委員がいると思うが、そこから参加している人も今日は少ない。市議会議員も参加していない。そういう方々が一堂に集まって意見を言える場があった方が良い。

・メンバーはいろいろな階層に分けて考え直さないといけない。

●地域での開催

・基本構想や計画の策定には、地域性が大いに関わってくる。地域によって人口がどんどん増えるところと、過疎化しているところがあり、地域によって議論の内容が変わる。地域や学区ごとに市民懇談会ができるといい。

●参加促進

・話し合いの内容をホームページに載せるなど、普段からのコミュニケーションが大事。

・自治会の情報が皆さんに行き届いていないという声もある。

・最終的には議会が決定するが、市民懇談会に無報酬で来ているのに、市議会議員が傍聴に来ていないのは大変残念に思う。

＜発表：Ｄグループ（メロン）＞

●タイミングと回数

・審議会の議論の途中段階で行われるということだが、素案や構想段階で１回行い、議論がある程度積み重なった途中段階で再度行い構想を固めるのが良い。

・今年度は年間３回行われたが、月ごとに行う、３ヶ月ごとに行うなど回数を増やし、テーマごとに複数回行うのが良い。

・大きな計画を議論の対象としているが、福祉政策の一部として子育てのような、より具体的な内容に対して行うことにメリットがあるのではないか。

●メンバー構成

・１回ごとに無作為抽出でメンバーが変わると議論がしづらいのではないか。今回のように２～３回目の参加であるから議論がしやすいという面がある。

・テーマによって参加者を選ぶ必要があり、無作為では難しい。専門性に関わることは、それに携わる人や経験者の意見について年代を超えて拾う必要がある。

・無作為だけでは意見が出にくいと思われる。狙いは幅広く市民の意見を聞くということなので、参加者からは何かしらの意見が出されて、有効に生かされることが前提にある。

●議論の結果の見える化と満足度

・意見を出してもどこに反映されたか分からない。結果をフィードバックすることが大事。意見が採用されたかどうか、どこに反映されたかをオープンにする必要がある。そこに市民懇談会の有効性が大きく影響するのではないか。

＜只友先生からの講評＞

各グループとも市民懇談会を１～２回経験していたので、まとめ方が上手になりました。ファシリテーターも参加者も意見のまとめ方に慣れてきたのかなと思いました。ビジュアル的にもポイントが示されていて良かったと思います。回数を重ねた成果だと思います。皆さんにご議論いただいた内容は検討部会で検討し、推進会議で精査をしていくことになります。大変大事な論点が次々に出されたと思います。

部会としては、無作為抽出による参加者募集という案をこのグループに投げました。ここにご参加の皆さんには、団体推薦や公募での応募者がたくさんいます。そのため、恐らく抵抗感があるというご意見が出るだろうと十分に予想していました。そういった意味ではかなりの意見が出されたと思います。もし無作為に抵抗のある部会長であれば、最初か

ら無作為の案は出さずに通っていると思います。私は無作為にとても期待をしています。それは、ミニ守山がこの部屋にできるかもしれないからです。同じ案を無作為だけで集まったグループに投げれば、恐らくあまり反対されないでしょう。これについては、議論の組み立て方によって議論の内容が変わる可能性があります。市民懇談会を行政手続きに組み入れるのであれば、どうすべきかについて貴重な経験ができたと思います。

ご意見の中には、専門的なテーマに関するものがありました。身の回りの問題で、専門性が極めて高いために専門家に任せきりになって困っていることはないでしょうか。原子力というのは、高度な科学技術のために、完全に専門家の中だけで仕切られていて、事業者団体が圧倒的な力を持っていました。そうした中で、いくら地域が安全性について意見を上げても、大丈夫だと言ってきて、あの大惨事が起きています。実は科学技術についても市民懇談会と似たようなコンセンサス会議というものがあります。そこでは市民が参加して、どんな科学技術のあり方が必要かを議論しています。専門家は専門分野について議論をしてもらわないといけませんが、それだけではなくて、一般的な普通の市民が参加して守山の政策を考えて議論することも可能ではないでしょうか。そうすることで守山市の政策の幅が広がるのではないだろうかと期待しています。新しい可能性が広がってくるのではないかと思っています。

話し合うということが、新しい守山をつくるアイデアを生み出すということだと思います。自治会との関係もこれから議論していきましょう。自治会は地域の代表組織としてすごく重要ですし、揺るぎのない事だと思います。しかし、組織化されたもの以外の声をいかにくみ上げて、新しい守山をつくる考え方を市民の力で生み出していけるかが課題になると思います。それから、市民懇談会を行うことで他人任せの民主主義ではなくて、自らが参加する民主主義を作っていけることを期待しています。

最後に、市民懇談会のようなものを行う際のマニュアルについて書かれた「市民討議による民主主義の再生」という書籍がドイツの研究所から出ています。また、皆さんが集まって熟議した結果、良い結論だけが出るかというと、そうとも限らないということで、「熟議が壊れるとき」という本もあります。どういうことかと言うと、少数のグループで同じ境遇の人が集まって議論すると、その枠の中に縮こまってしまうということです。そこでは新しいアイデアが出てこないことにもなります。だから外の新しい議論を入れながら発展させていく努力も必要になります。良い話し合いをして、良い結論を導くためにはどんな工夫が必要なのか、守山市が市民懇談会を制度として入れる際に問題として直面します。分かりやすい資料を作ることは行政改革にもつながります。市民を信頼することで、市民と行政の信頼関係づくりにもつながります。そうした信頼に基づいた地方自治にお任せするのではなくて、市民として参加する社会を作るのが市民参加と協働のまちづくりだと思います。

＜参加者からの感想＞

・３回目の参加になりますが、自分の意見を言える場があることが生きがいであり、参加することに意義があると思います。非常に充実した時間を過ごすことができました。（中西さん）

・３回参加させていただいて、皆で意見を出して話し合う機会があまりないので、すごくありがたく、新しい発見がありました。人の意見をしっかりと聞くことは大事だと思いますが、自分の意見を強く推す方もいます。そのため、ミニ守山を市民懇談会でつくって協調性のある話し合いが展開されるといいと思います。（福永さん）

・私は最初、無作為で参加したので、無作為としての意見も出させてもらいました。無作為で集まれば、どの団体にも所属していない人でも発言する機会が得られるので、貴重な経験をさせてもらいました。世代や性別が違う人たちの中で、学生さんもリタイヤされた方も幅広く参加されているので、本当にミニ守山だと思います。（小田さん）

・私も無作為で参加させていただきました。あまり意見を言える状況にはないので、市の方に資料を作ってもらって、これから皆さんに期待していただけるように頑張っていきたいと思います。（大黒さん）

＜田中部長の挨拶＞

本日は第３回の市民懇談会にご参加をいただき、長時間に渡り大変ありがとうございました。グループごとの話し合いを拝見させていただき、それぞれの立場からいろいろなご意見をいただきました。最後には参加者からの感想をお聞きでき、有意義な時間を過ごしていただいたということでした。また、いろいろな提言も頂きましたので、行政としてもしっかりと受け止めさせていただきたいと思います。

本日の午前中には市政報告会があり、各部長が市の重要施策について説明をしました。参加された方のご意見の中には、各部長が自分のこととしてしっかりと市民の皆様に市の課題を伝えるべきであり、単なる棒読みで終わっているとご指摘をいただきました。市としても市民の皆様に分かりやすい資料の提出やプレゼンを含めて、守山市の実態をいかに伝えていくかが非常に大事であると身に染みているところです。

本日いただいたグループごとの意見については、今後の推進会議の中で議論を深めて、来月の２月末には市長に対して提言書を提出することになっています。市は提言書をしっかりと受け止めて今後のまちづくりに活かしていきたいと考えております。今後も皆様のご支援とご理解をいただくことをお願いして簡単ではありますが、閉会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。